



鳥獣保護員を務める 鈴木 暁さん

すずき・さとる
大曲柏葉在住。
鳥獣保護員として、市内を担当している。
北海道猟友会札幌支部北広島部会と
広獣会の会長も務めている。

鳥獣保護員の活動

野生動物の保護や管理、制度に関する知識が豊富で、保護への熱意があることから、道から平成22年に鳥獣保護員として任命された鈴木暁さん。野生動物の保護に加え、エゾシカやカラスなどの駆除も行っている。3月には長年にわたる活動に対し、道知事から感謝状が贈られた。

交通事故に遭ったエゾシカや、けがをした野鳥などに対応するため、昼夜問わず出動要請がかかるのだそう。

農業被害に心を痛める

平取町で生まれ育った鈴木さん。幼い頃から、猟をしていた父親に連れられ山に行っていた。

実家が農家で、畑の作物がヒグマやエゾシカに頻繁に荒らされた経験から、有害鳥獣対策などに関心を持つた。

学生の頃から札幌で過ごし、昭和39年に20歳で狩猟免許を取得。北広島には昭和56年から住んでいる。

市内でもエゾシカによる農業被害がひどいことを知る。鈴木さんは困っている農家を助けたいと、仕事の傍ら根気よく道や市と話し合つた。猟友会などの活動が評価され、市からも見回り活動や鳥獣保護などを

依頼されるようになった。

鳥獣保護と有害鳥獣対策

北広島近郊ではエゾシカが増え続け、市内の農業被害も深刻だ。年々捕獲数が増加している。毎年、夜間に道路を車で低速走行しながらライトを照射し、エゾシカの生息数や分布を把握するライトセンサスを実施しており、今年も実施する予定だ。

ヒグマ対策も重要だ。本来、保護動物であるヒグマだが人や農作物に危害を及ぼすと、有害鳥獣として捕獲対象になってしまうのだそう。

北海道は山菜採りのシーズンに入った。鈴木さんは「食べ残し、飲み残しなどは持ち帰ってほしいです。ヒグマは一度、生ごみなどの味を知ると、それを目当てに人間に近づき襲うようになります。命に関わることなので絶対に捨てないでほしいです」と、強い口調で語る。有害鳥獣の駆除と保護は難しい問題も多いが、共存の精神を持ち、活動してほしいと願っている。



猟友会の皆さんと